別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画　書

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　ホッカイドウカガクダイガク 学校法人　北海道科学大学	
フリガナ 大学の名称	ホッカイドウカガクダイガク 北海道科学大学　(Hokkaido University of Science)	
大学本部の位置	北海道札幌市手稲区前田７条15丁目４番１号	
大学の目的	「科学的市民」の育成を教育理念の中心に据えて、知識基盤社会を担う市民としての汎用的技能・能力と時代の要請に即した専門の学術を教授・研究し、高い応用能力と健全な心身を備え、科学的思考によって専門職としての役割を主体的に果たせる人材を育成することにより、地域社会の活性化に寄与することを使命とする。	
新設学部等の目的	「幅広い教養基盤に支えられた豊かな人間性や社会性と確かな職業観、生涯にわたり自発的な学習に取り組む態度を身に付けて、わが国の地域の構造や特性の理解のもと、地域と地域の資源の在り方についての見方や考え方を働かせ、資源の活用による地域の魅力を高めるための諸課題の追究や解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材」を養成する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
地域創造学部 (Faculty of Regional Creation Studies)								北海道 札幌市手稲区前田２条12丁目361番24
地域創造学科 (Department of Regional Creation Studies)	4	75	－	300	学士 (地域創造学) (Bachelor of Regional Creation Studies)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係	令和9年4月 第1年次	北海道 札幌市手稲区前田７条15丁目４番１号
計		75	－	300				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

北海道科学大学
　情報科学部
　　経営情報学科　（　50）（令和８年４月届出予定）
　未来デザイン学部
　　人間社会学科（廃止）（△50）
　　※令和９年４月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
地域創造学部　地域創造学科	66科目	5科目	6科目	77科目	124単位

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	地域創造学部　地域創造学科	人 10 (4)	人 1 (0)	人 0 (0)	人 1 (0)	人 12 (4)	人 0 (0)	人 41 (9)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (4)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (4)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (4)			
	情報科学部　経営情報学科	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)	0 (0)	36 (12)	令和8年4月届出予定
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			
	計	17 (10)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	20 (11)	0 (0)	— (—)	
既設分	工学部　機械工学科	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	47 (47)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			

既設分	工学部　電気電子工学科	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	40 (40)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
	工学部　建築学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	61 (61)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)			
	工学部　都市環境学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	43 (43)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			

既設分	情報科学部　情報科学科	7 (7)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	39 (39)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	21 (21)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	21 (21)			
	薬学部　薬学科	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)	0 (0)	39 (39)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　25人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)			
	保健医療学部　看護学科	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)	3 (3)	48 (48)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)			

既設分	保健医療学部　理学療法学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	54 (54)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)			
	保健医療学部　臨床工学科	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	63 (63)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)			
	保健医療学部　診療放射線学科	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	54 (54)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)			

既設分	未来デザイン学部　メディアデザイン学科	7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	38 (38)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
	計	87 (87)	63 (63)	36 (36)	25 (25)	211 (211)	3 (3)	－ (－)	
合計		104 (97)	64 (63)	37 (37)	26 (25)	231 (222)	3 (3)	－ (－)	

職種	専属	その他	計
事務職員	107人 (107)	23人 (23)	130人 (130)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	2 (2)	0 (0)	2 (2)
その他の職員	3 (3)	0 (0)	3 (3)
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	112 (112)	23 (23)	135 (135)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	207,475㎡	19,694㎡	41,825㎡	268,994㎡	北海道科学大学高等学校(収容定員:900人)と共用。北海道私立高等学校における必要面積の基準なし
	その他	1,366㎡	0㎡	0㎡	1,366㎡	
	合計	208,841㎡	19,694㎡	41,825㎡	270,360㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	76,416㎡ (76,416㎡)	5,371㎡ (5,371㎡)	10,213㎡ (10,213㎡)	92,000㎡ (92,000㎡)	北海道科学大学高等学校(必要面積:5,040㎡、収容定員:900人)と共用

教室・教員研究室	教室	451室	教員研究室	16室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	地域創造学部	1,678〔37〕 (1,282〔16〕)	350〔0〕 (82〔0〕)	49〔8〕 (49〔8〕)	8〔8〕 (8〔8〕)	1,793 (1,793)	－ (－)	大学全体での共用分図書152,876冊、学術雑誌1,772種 〔機械・器具〕学部所有の数を記載。 大学全体での共用分は10,700点
	計	1,678〔37〕 (1,282〔16〕)	350〔0〕 (82〔0〕)	49〔8〕 (49〔8〕)	8〔8〕 (8〔8〕)	1,793 (1,793)	－ (－)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	
	5,720㎡	0㎡	4,164㎡	大学全体

経費の見積及び維持方法の概要										
経費の見積り	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	図書購入費は、電子ジャーナル・データベースを含む。
	教員１人当り研究費等		370千円	370千円	370千円	370千円	－	－	
	共同研究費等		1,198千円	1,198千円	1,198千円	1,198千円	－	－	
	図書購入費	2,160千円	1,722千円	1,271千円	100千円	100千円	－	－	
	設備購入費	122,095千円	1,657千円	2,293千円	2,930千円	3,566千円	－	－	
学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
			1,350千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	－	－	
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入　等						

既設大学等の状況									
大学等の名称	北海道科学大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部						0.99		北海道札幌市手稲区前田７条15丁目４番１号	
機械工学科	4	92	—	368	学士(工学)	0.91	平成20年度		
情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※令和7年度より学生募集停止（情報工学科）
電気電子工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.07	平成20年度		
建築学科	4	90	—	340	学士(工学)	1.07	平成26年度		※令和7年度入学定員増（10人）（建築学科）
都市環境学科	4	50	—	200	学士(工学)	0.83	平成26年度		
情報科学部						1.08			
情報科学科	4	100	—	200	学士(工学)	1.08	令和7年度		
薬学部						1.04			
薬学科	6	180	—	1,080	学士(薬学)	1.04	平成30年度		
保健医療学部						1.06			
看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	1.11	平成26年度		
理学療法学科	4	50	—	200	学士(理学療法学)	1.03	平成26年度		
義肢装具学科	4	—	—	—	学士(義肢装具学)	—	平成24年度		※令和7年度より学生募集停止（義肢装具学科）
臨床工学科	4	70	—	280	学士(臨床工学)	0.94	平成20年度		
診療放射線学科	4	50	—	200	学士(放射線技術学)	1.17	平成26年度		
未来デザイン学部						1.08			
メディアデザイン学科	4	90	—	340	学士(工学)	1.11	平成20年度		※令和7年度入学定員増（10人）（メディアデザイン学科）
人間社会学科	4	50	—	200	学士(工学)	1.03	平成20年度		※令和9年度より学生募集停止（人間社会学科）

既設大学等の状況	大学等の名称	北海道科学大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	工学研究科　修士課程						0.76		北海道札幌市手稲区前田７条15丁目４番１号	
	機械工学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	0.90	平成4年度		
	電気電子工学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	1.12	平成24年度		
	情報工学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	1.37	平成24年度		
	建築学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	0.37	平成2年度		
	都市環境学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	0.00	平成4年度		
	保健医療学研究科　修士課程						0.92			
	看護学専攻	2	5	—	10	修士(看護学)	0.80	平成30年度		
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学専攻	2	4	—	8	修士(ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学)	0.50	平成30年度		
	医療技術学専攻	2	4	—	8	修士(医療技術学)	1.50	平成30年度		
	工学研究科 博士後期課程						0.33			
	工学専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.33	平成28年度		
	保健医療学研究科　博士後期課程						1.44			
	保健医療学専攻	3	3	—	9	博士(保健医療学)	1.44	令和2年度		
	薬学研究科　博士課程						0.91			
	薬学専攻	4	3	—	12	博士(薬学)	0.91	平成30年度		

附属施設の概要	名　　称：薬用植物園 目　　的：薬学部及び薬学研究科の教育と研究に使用するため 所 在 地：北海道札幌市手稲区前田７条15丁目４番１号 北海道科学大学キャンパス内 設置年月：令和３年10月 規 模 等：1,366㎡ 名　　称：北海道科学大学サテライトキャンパス 目　　的：本学の在学生・教職員の教育研修施設や、社会人の学習機会を提供する教育研究の拠点として使用するため 所 在 地：北海道札幌市豊平区中の島２条６丁目２−４ 北海道自動車学校３階 設置年月：令和６年８月 規 模 等：163.98㎡

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
基本教育科目	修学基礎	修学基礎講座	1前		2			○								1	
	情報活用	情報通信技術Ⅰ	1前		2				○							1	
		情報通信技術Ⅱ	1後		2				○							1	
		統計分析法	2前		2				○							1	
	課題探究	問題解決法	1前		1			○								1	
		創造思考法	3前		1			○								1	
	言語表現	英語表現Ⅰ（基礎）	1前		2			○								2	
		英語表現Ⅱ（応用）	1後		2			○								2	
		英語表現Ⅲ（実践）	2前		2			○								2	
		日本語表現Ⅰ（口頭）	1前		2			○								2	
		日本語表現Ⅱ（文章）	1後		2			○								2	
	人間基礎	自己管理力の構築	1前		1			○								1	
		人間関係力の構築	1前		1			○								1	
	自己実現	キャリア形成Ⅰ	1前		1			○								1	
		キャリア形成Ⅱ	3前		1			○								1	
	社会理解	心理と行動	1・2前			2		○								1	
		健康と運動	3前			2		○								1	
		民族と宗教	1・2後			2		○								1	
		法律と憲法	1・2前			2		○								1	
		政治と行政	1・2前			2		○								1	
		経済と政策	1・2後			2		○								1	
		安全と平和	3前			2		○								1	
		外交と国益	3前			2		○								1	
		自然と環境	3前			2		○								1	
		小計（24科目）	－	－	24	18	0	－			0	0	0	0	0	18	－
専門教育科目	専門導入科目	地域創造概論	1前	○	2			○			4						オムニバス・共同（一部）
		社会学入門	1前	○	2			○			1						
		経済学入門	1前	○	2			○			1						
		地方創生論	1後	○	2			○			1						
		小計（4科目）	－	－	8	0	0	－			4	0	0	0	0	0	－
	専門基礎科目	地域社会論	1後	○	2			○			1						
		地域文化論	1後	○	2			○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		地域経済論	1後	○	2			○			1						
		地域調査論	1後	○	2			○			2						オムニバス・共同（一部）
		地域問題論	1後	○	2			○			3						オムニバス・共同（一部）
		比較地域論	2前	○	2			○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		小計（6科目）	－	－	12	0	0	－			4	0	0	0	0	2	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門	専門基幹科目	地域変動論	2前	○	2			○			2						オムニバス・共同（一部）
		地域コミュニティ論	2前	○	2			○			1						
		地域活性論	2前	○	2			○			1						
		地域調査法	2前	○	2			○			2						オムニバス・共同（一部）
		地域分析法	2後	○	2			○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		地方自治論	2後	○	2			○			1						
		地方財政論	2後	○	2			○			1						
		地域産業論	2後	○	2			○				1				1	オムニバス・共同（一部）
		地域企業論	3前	○	2			○				1				1	オムニバス・共同（一部）
		地域資源論	2前	○	2			○			3					1	オムニバス・共同（一部）
		資源活用論	2後	○	2			○			3	1		1			オムニバス・共同（一部）
		小計（11科目）	－	－	22	0	0	－			7	1	0	1	0	3	－
教育科目	専門展開科目	マーケティング論	2前	○	2			○			1						
		マーケティング調査	2後	○	2			○			1						
		マーケティング戦略	3前	○	2			○			1						
		ことづくり論	2後			2		○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）
		地域ブランド論	2後			2		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		地域ビジネス論	3前			2		○								1	
		６次産業化論	3前			2		○								3	オムニバス・共同（一部）
		商品開発論	3前			2		○								1	
		流通販売論	3後			2		○			1						
		広報広告論	3後			2		○								1	
		知的財産権	4前			2		○								1	
		イノベーション論	4前			2		○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）
		デザインシンキング	4前			2		○								1	
		まちづくり論	2後			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		合意形成論	2後			2		○								1	
		都市計画論	3前			2		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		都市環境論	3前			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		地域景観論	3前			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		地域交通論	3後			2		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		住宅計画論	4前			2		○								1	
		公園緑地計画論	4前			2		○								1	
		地域災害論	3後			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		地域防災論	4前			2		○			1					2	オムニバス・共同（一部）
		小計（23科目）	－	－	6	40	0	－			6	1	0	0	0	20	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	専門実践科目	現地調査（地域理解）	1後	○	2					○	4	1		1			共同
		現地調査（地域問題）	2前	○	2					○	2	1		1			共同
		現地調査（地域資源）	2後	○	2					○	3	1		1			共同
		現地調査（資源活用）	3前	○	2					○	3	1		1			共同
		地域調査実習	2後	○	2					○	1						
		地域創造演習	3前	○	2				○		4	1		1			共同
		地域創造実習	3後	○	4					○	4	1		1			共同
		小計（7科目）	－	－	16	0	0	－			7	1	0	1	0	0	－
	専門研究科目	地域研究法	3前	○	2			○			1						
		地域創造研究	4通	○	4				○		9	1					
		小計（2科目）	－	－	6	0	0	－			9	1	0	0	0	0	－
合計（77科目）			－	－	94	58	0	－			10	1	0	1	0	41	－

学位又は称号	学士（地域創造学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係 経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
基本教育科目から36単位（必修24単位、心理と行動、健康と運動、民族と宗教、法律と憲法、政治と行政、経済と政策、安全と平和、外交と国益、自然と環境から12単位）、専門教育科目から88単位以上（必修70単位含む、専門展開科目選択40単位の中から18単位以上）、合計124単位以上を修得すること。 ・履修科目の登録の上限：前期22単位、後期22単位	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

前田キャンパス

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
基本教育科目	修学基礎	修学基礎講座	1前		2			○								1	
	情報活用	情報通信技術Ⅰ	1前		2				○							1	
		情報通信技術Ⅱ	1後		2				○							1	
		統計分析法	2前		2				○							1	
	課題探究	問題解決法	1前		1			○								1	
		創造思考法	3前		1			○								1	
	言語表現	英語表現Ⅰ（基礎）	1前		2			○								2	
		英語表現Ⅱ（応用）	1後		2			○								2	
		英語表現Ⅲ（実践）	2前		2			○								2	
		日本語表現Ⅰ（口頭）	1前		2			○								2	
		日本語表現Ⅱ（文章）	1後		2			○								2	
	人間基礎	自己管理力の構築	1前		1			○								1	
		人間関係力の構築	1前		1			○								1	
	自己実現	キャリア形成Ⅰ	1前		1			○								1	
		キャリア形成Ⅱ	3前		1			○								1	
	社会理解	心理と行動	1・2前			2		○								1	
		健康と運動	3前			2		○								1	
		民族と宗教	1・2後			2		○								1	
		法律と憲法	1・2前			2		○								1	
		政治と行政	1・2前			2		○								1	
		経済と政策	1・2後			2		○								1	
		安全と平和	3前			2		○								1	
		外交と国益	3前			2		○								1	
		自然と環境	3前			2		○								1	
		小計（24科目）	－	－	24	18	0	－			0	0	0	0	0	18	－
合計（24科目）			－	－	24	18	0	－			0	0	0	0	0	18	－

学位又は称号	学士（地域創造学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係 経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
基本教育科目から36単位（必修24単位、心理と行動、健康と運動、民族と宗教、法律と憲法、政治と行政、経済と政策、安全と平和、外交と国益、自然と環境から12単位）、専門教育科目から88単位以上（必修70単位含む、専門展開科目選択40単位の中から18単位以上）、合計124単位以上を修得すること。 ・履修科目の登録の上限：前期22単位、後期22単位	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

手稲駅前キャンパス

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	専門導入科目	地域創造概論	1前	○	2			○			4						オムニバス・共同（一部）
		社会学入門	1前	○	2			○			1						
		経済学入門	1前	○	2			○			1						
		地方創生論	1後	○	2			○			1						
		小計（4科目）	－	－	8	0	0	－			4	0	0	0	0	0	－
	専門基礎科目	地域社会論	1後	○	2			○			1						
		地域文化論	1後	○	2			○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		地域経済論	1後	○	2			○			1						
		地域調査論	1後	○	2			○			2						オムニバス・共同（一部）
		地域問題論	1後	○	2			○			3						オムニバス・共同（一部）
		比較地域論	2前	○	2			○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		小計（6科目）	－	－	12	0	0	－			4	0	0	0	0	2	－
	専門基幹科目	地域変動論	2前	○	2			○			2						オムニバス・共同（一部）
		地域コミュニティ論	2前	○	2			○			1						
		地域活性論	2前	○	2			○			1						
		地域調査法	2前	○	2			○			2						オムニバス・共同（一部）
		地域分析法	2後	○	2			○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		地方自治論	2後	○	2			○			1						
		地方財政論	2後	○	2			○			1						
		地域産業論	2後	○	2			○				1				1	オムニバス・共同（一部）
		地域企業論	3前	○	2			○				1				1	オムニバス・共同（一部）
		地域資源論	2前	○	2			○			3					1	オムニバス・共同（一部）
		資源活用論	2後	○	2			○			3	1		1			オムニバス・共同（一部）
		小計（11科目）	－	－	22	0	0	－			7	1	0	1	0	3	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	専門展開科目	マーケティング論	2前	○	2			○			1						
		マーケティング調査	2後	○	2			○			1						
		マーケティング戦略	3前	○	2			○			1						
		ことづくり論	2後			2		○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）
		地域ブランド論	2後			2		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		地域ビジネス論	3前			2		○								1	
		６次産業化論	3前			2		○								3	オムニバス・共同（一部）
		商品開発論	3前			2		○								1	
		流通販売論	3後			2		○			1						
		広報広告論	3後			2		○								1	
		知的財産権	4前			2		○								1	
		イノベーション論	4前			2		○			1	1				1	オムニバス・共同（一部）
		デザインシンキング	4前			2		○								1	
		まちづくり論	2後			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		合意形成論	2後			2		○								1	
		都市計画論	3前			2		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		都市環境論	3前			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		地域景観論	3前			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		地域交通論	3後			2		○			1					1	オムニバス・共同（一部）
		住宅計画論	4前			2		○								1	
		公園緑地計画論	4前			2		○								1	
		地域災害論	3後			2		○			2					1	オムニバス・共同（一部）
		地域防災論	4前			2		○			1					2	オムニバス・共同（一部）
		小計（23科目）	－	－	6	40	0	－			6	1	0	0	0	20	－
	専門実践科目	現地調査（地域理解）	1後	○	2					○	4	1		1			共同
		現地調査（地域問題）	2前	○	2					○	2	1		1			共同
		現地調査（地域資源）	2後	○	2					○	3	1		1			共同
		現地調査（資源活用）	3前	○	2					○	3	1		1			共同
		地域調査実習	2後	○	2					○	1						
		地域創造演習	3前	○	2				○		4	1		1			共同
		地域創造実習	3後	○	4					○	4	1		1			共同
		小計（7科目）	－	－	16	0	0	－			7	1	0	1	0	0	－
	専門研究科目	地域研究法	3前	○	2			○			1						
		地域創造研究	4通	○	4				○		9	1					
		小計（2科目）	－	－	6	0	0	－			9	1	0	0	0	0	－
合計（53科目）			－	－	70	40	0	－			10	1	0	1	0		－

学位又は称号	学士（地域創造学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係 経済学関係

教　育　課　程　等　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
基本教育科目から36単位（必修24単位、心理と行動、健康と運動、民族と宗教、法律と憲法、政治と行政、経済と政策、安全と平和、外交と国益、自然と環境から12単位）、専門教育科目から88単位以上（必修70単位含む、専門展開科目選択40単位の中から18単位以上）、合計124単位以上を修得すること。 ・履修科目の登録の上限：前期22単位、後期22単位	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（地域創造学部地域創造学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基本教育科目	修学基礎	修学基礎講座		大学教育の意義と目的について理解を深めた上で、４年間の学修計画の立て方や学生生活の在り方について学ぶとともに、講義ノートのとり方、文献検索や資料収集の方法、専門書等の読み方など、学生の自主的な学修のために必要となる基本的な知識と技能について学修する。その上で、大学生として求められる常識や生活態度及び教職員や仲間との適切な人間関係を築くためのコミュニケーションの在り方について学修する。	
	情報活用	情報通信技術Ⅰ		情報及び情報通信技術を主体的に選択し、活用していくための資質と能力を高めることを目的とする。講義内容は、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報の概念、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等についての理解を深めるとともに、ネットワークの利用、ソフトウェアの活用、情報セキュリティ、情報倫理など、情報と情報通信技術を適切に活用するための知識と技能について学修する。	
		情報通信技術Ⅱ		情報技術及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための資質と能力を高めることを目的とする。講義内容は、情報通信技術を用いて、多様な情報を収集・分析・整理・加工して適切に判断し、それらを情報倫理に則って効果的に活用できる技能及びデータベースや人工知能の適切な活用方法について学修する。加えて、現代社会における情報通信技術の活用方法について、具体的な活用事例の考察を通して理解を深める。	
		統計分析法		知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な統計分析に関する能力を身に付けることを目的とする。講義内容は、統計分析の目的や重要性と統計分析で出来る事や分析方法の種類について概説した上で、具体的な統計資料による統計データの見方や要約方法、分析方法、活用方法などについて学び、統計的なものの見方やデータを収集・整理・解析して有益な情報を引き出す技能について学修する。	
	課題探究	問題解決法		主体的に問題を発見し、問題解決に必要な情報を収集、分析、整理し、問題解決に向けた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。講義内容は、問題解決力の概要について解説した上で、問題の発見や問題の本質の見極めから解決するための施策の立案まで、全体の流れや手順について学ぶとともに、日常の生活の中で、問題解決力を高めるための要点について学修する。	
		創造思考法		既成概念にとらわれず、自由な発想をすることにより、新しいアイデアや解決策を生み出すための思考法を身に付けることを目的とする。講義内容は、創造的思考の基本概念や特徴とプロセスについて概説した上で、日常生活や仕事での創造的思考の具体的な活用例について考察するとともに、日常の生活の中で、創造的思考を高めるために有効となる実践方法について学修する。	
	言語表現	英語表現Ⅰ（基礎）		知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる英語の音声言語を中心とする運用能力を高めることを目的とする。講義内容は、高等学校までの既習の教科目の学修内容を踏まえた上で、挨拶をはじめとする日常的な場面において頻出する英語の基本表現について学ぶとともに、自己紹介や道路案内、旅行、買い物などの実際の場面を想定した英語による実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。	
		英語表現Ⅱ（応用）		知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる英語の音声言語を中心とする運用能力を高めることを目的とする。講義内容は、既習の「英語表現Ⅰ（基礎）」の学修内容を踏まえた上で、日常的な場面に使える、覚えておくと便利な英語の表現について学ぶとともに、相手や目的・場面に応じて自らの意思や考えを英語により適切に表現・伝達することができる、英語による応用的なコミュニケーション力の向上を図る。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基本教育科目	言語表現	英語表現Ⅲ（実践）		知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる英語の音声言語を中心とする運用能力を高めることを目的とする。講義内容は、既習の「英語表現Ⅱ（応用）」の学修内容を踏まえた上で、効果的な英語の表現や語彙の使い方について学ぶとともに、様々な場面において自己の考えや意見を的確かつ明確に発信し、かつ相手の意思を的確に理解することのできる、英語による実践的なコミュニケーション力の向上を図る。	
		日本語表現Ⅰ（口頭）		知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的とする。講義内容は、日本語による発表や討論のための基本的な方法論の修得に向けて、発生や発音の訓練を通して、実践的なスピーチ能力を高めるとともに、的確な意見の述べ方や議論の進め方、論理的思考、客観的思考などについて学修する。加えて、説得力や自己表現力を高めるための技法について学修する。	
		日本語表現Ⅱ（文章）		知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な日本語の運用能力を身に付けることを目的とする。講義内容は、日本語による文章作成に関する基本的な能力の修得に向けて、良い文章を書くための基本的な技術やルールを学ぶとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術について学修する。加えて、ビジネスにおける議事録や報告書等の適切な記載方法について学修する。	
	人間基礎	自己管理力の構築		生活全般にわたり自らを律して行動できるとともに、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる態度を養うことを目的とする。講義内容は、自己管理の意義や目的について理解を深めるとともに、自己管理力を高めるメリットや方法について学修する。また、倫理観の定義と重要性の理解の下、人間として社会的に守るべき規範や秩序に基づいた行動について考えるとともに、倫理観を高めるための方法について学修する。	
		人間関係力の構築		自己や自我の認識、自己と他者との関係、他者相互間の関係の理解と人間関係の多様な在り方について学ぶとともに、他者との円滑な人間関係を構築するための知識と方法について学修する。講義内容は、学生生活や職業現場における友人や上司・同僚との人間関係の在り方について理解を深めるとともに、人間関係を築く上で重要となる要素や質問力、傾聴力、共感力等のコミュニケーションに重要となる技法について学修する。	
	自己実現	キャリア形成Ⅰ		学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を修得させ、自己の個性を理解した上で、主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学修できる態度の育成を目的とする。講義内容は、卒業生や外部講師による職業体験談を通じて、勤労観や職業観の醸成を図るとともに、自分の個性や性格を理解するための自己分析と職業選択の考え方や進め方について学修する。	
		キャリア形成Ⅱ		学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識を修得させ、自己の個性を理解した上で、主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学修できる態度を育成する。講義内容は、外部講師による求める人材像についての理解及びビジネスマナーに関する知識や態度の修得を図るとともに、生涯学修の観点から目標設定や目標達成のための考え方について学修する。	
	社会理解	心理と行動		人間のライフステージごとの心理の発達過程について理解した上で、ストレスや心理的不適合などの心理状況が与える人間行動への影響について解説する。また、人間心理の発達の特徴について概説した上で、日常生活の中から心理状況に影響を与える事柄を取り上げて考察することで、人間心理の諸局面が影響を与える人間行動の特徴について理解するとともに、精神心理的な相談援助について考える。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基本教育科目	社会理解	健康と運動		健康と疾病の連続性について解説した上で、日常生活における食欲、睡眠 生体リズム、ストレス現象等の生体現象を取り上げ、それらがいかに合目的な現象であるかについて理解を深める。また、身体活動や運動がメンタルヘルスや生活の質の改善、健康の維持・増進、疾病の予防等にもたらす効果について学ぶとともに、生活習慣予防やストレス解消のための基本的な知識と技能について学修する。	
		民族と宗教		思想の内容や特質について、思想史的な観点から考察するとともに、他民族国家内における民族間の利害問題、少数民族の問題、先住民族の既得権の問題など、民族にまつわる諸問題について学修する。また、世界三大宗教と特定の国や民族で信仰されている民族宗教や新興宗教について概観し、異なる宗教間や宗派の対立などの宗教問題の考察を通して、世界の諸地域に暮らす民族集団や宗教社会に対する理解を深める。	
		法律と憲法		社会を形成する一員としての責任と義務を理解し、社会を形成・維持するために必要となる法律や規範、契約などの目的や意義について学ぶとともに、裁判員制度や生命医療などの身近な法律問題を取り上げて考察することで、法律社会への興味と関心を喚起する。また、基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会・内閣・裁判所等の政治機構など、日本国憲法の特質について理解を深める。	
		政治と行政		現代国家の成立と政府や政治の仕組みについて解説した上で、政党政治や選挙制度、政治献金などの政治に関する諸問題を取り上げて考察することで、日本の政治の現状と課題についての認識を深めるとともに、政治社会に対する興味と関心を喚起する。また、国や地方の行政機関や行政制度、行政改革に関する諸課題についての考察を通して、政治と行政の関係や行政が果たす役割と機能について理解を深める。	
		経済と政策		現代経済の基本的な概念と枠組みについて概説した上で、社会的に重要な経済事象に関する主題や現代社会が直面する経済的な諸課題について経済理論と関連付けて考察することで、経済現象や経済活動の多様性について理解するとともに、経済的な見方や捉え方、考え方について学ぶ。また、経済政策の現状と課題についての考察を通して、経済構造と経済政策との関連性や経済社会についての理解を深める。	
		安全と平和		国際社会で生じている紛争やテロ問題について考察するとともに、核軍縮、核実験、核保有国、核兵器、核戦争などの核兵器問題と核拡散防止条約や核兵器禁止条約、部分的・包括的核実験禁止条約などの関連条約について理解する。また、安全保障と自衛権について考えるとともに、第一次・第二次世界大戦や原子爆弾と被爆者など、戦争や戦災についての考察を通して、世界と日本の平和問題についての理解を深める。	
		外交と国益		アジア・大洋州、北米、中南米、欧州、ロシア、中東、アフリカなど地域別に見た外交及び国際社会の平和と安定に向けた取組や地球規模の課題への取組、経済外交、日本への理解の促進に向けた取組など分野別に見た外交についての考察を通して、国際環境の変動や情勢認識と日本外交の展開について学修する。また、日本と韓国、中国、北朝鮮との関係や領土問題を取り上げながら隣接国との外交課題について考える。	
		自然と環境		大気汚染・水質汚濁・森林破壊・異常気象・自然災害・自然保護等の自然環境、公害問題・騒音問題・廃棄物処理・二酸化炭素削減等の社会環境、持続可能社会・循環型社会・環境共生都市等の都市環境など、地球規模で生じている様々な環境現象の題材の考察を通して、環境に対する興味と関心を高めるとともに、環境劣化・環境汚染・環境破壊・環境攪乱などの課題認識と環境問題や環境対策に関する理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門導入科目	地域創造概論	○	（概要） 地域創造の概念や定義と地域創造が果たす役割や重要性及び地域創造を学ぶ意義や目的と専門教育における学びの方向性の理解を通して、地域創造に対する興味喚起と動機付けを図る。 （オムニバス方式／全１５回） （５　橋本行史、９　山本　努、３　板谷淳一、２　石田眞二／１回）（共同） 本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （５　橋本行史／３回） 地域創造の基本概念や地域創造の理念と地域振興や地域活性化における地域創造が果たす役割や重要性について解説するとともに、地域創造学の体系と主な学修内容について解説する。 （９　山本　努／３回） 地域創造学を学ぶ上で必要な社会学の基本的な考え方や概念及び地域社会の仕組みや特性と社会的事象に関する知識を修得することの意義や重要性と主な学修内容について解説する。 （３　板谷淳一／３回） 地域創造学を学ぶ上で必要な経済学の基本的な考え方や概念及び地域経済の仕組みや特性と経済的事象に関する知識を修得することの意義や重要性と主な学修内容について解説する。 （５　橋本行史／２回） 地域社会に存在している人々の生活や産業などに活用可能なモノを使った付加価値づくりのための知識や考え方を学ぶことの意義や重要性と主な学修内容について解説する。 （２　石田眞二／２回） 地域社会に存在している景観や街路、建物や施設などを活用して、地域の魅力や価値を高めるための知識や考え方を学ぶことの意義や重要性と主な学修内容について解説する。 （５　橋本行史、９　山本　努、３　板谷淳一、２　石田眞二／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		社会学入門	○	地域を理解する上での基盤となる社会学において、組み立てられた基本的な知識の体系について理解することを目的として、社会の基本的な仕組みや人間関係、社会で起きる様々な現象の実態や現象の起こる原因に関するメカニズムについて解説した上で、社会現象に対する社会学的なものの見方や考え方の基本的な原理について学ぶとともに、社会を見る上での多様な視点について学修する。	
		経済学入門	○	地域を理解する上での基盤となる経済学において、組み立てられた基本的な知識の体系について理解することを目的として、経済の概念や仕組みと経済の果たす役割や機能について解説した上で、需要と供給の概念と変化、価格決定と市場の役割、経済成長と景気循環、財政政策と金融政策の概要と役割や課題など、具体的な経済事象について経済理論と関連付けながら学修する。	
		地方創生論	○	地方創生の意味と法律上の定義や歴史について概説した上で、地方創生が必要とされている背景と地域が直面している課題について解説する。その上で、地方創生に向けた政府の主な政策や制度と仕組みなど具体的な取組み及び地方創生における自治体の果たすべき役割について学ぶとともに、近年における地方創生の動向と今後の展望について学修する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	地域社会論	○	地域社会論を学ぶ意義と目的について概説した上で、地域社会の定義や特性と理論枠組みについて解説するとともに、地域社会の仕組みや地域社会を構成する諸領域について解説する。その上で、地域社会の多様性や多面性の考察を通して、地域社会の実相について学ぶとともに、現代地域事情における社会学的な見方や捉え方と地域社会を見る上での多様な視点について学修する。	
		地域文化論	○	（概要） 文化学の基礎について学ぶとともに、地域文化の定義や概念と特徴及び地域の特色ある文化を活かした文化活動の取り組みや在り方の考察を通して、文化的な見方や考え方について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （１　梶谷　崇、27　今村信隆／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （27　今村信隆／８回） 人間の創造的な営みである文化の概念や意義とその多様性や文化の普遍性と共通点について概説した上で、地域文化の概念や役割及び地域文化の成り立ちと特性や多様性について解説する。 （１　梶谷　崇／５回） 各地の風土から生まれ、生活に根ざした地域の文化と暮らしについて概説した上で、柳宗悦らが提唱した民藝運動に焦点を当てて、地域の文化を考察する視点や考え方について学修する。 （１　梶谷　崇、27　今村信隆／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域経済論	○	本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、日本経済の歴史的な背景や仕組みと日本経済を取り巻く環境について学ぶとともに、国や地方自治体が行う経済活動について解説する。さらに、地域経済の構造や機能と動向について学ぶとともに、地域社会における具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考察することで、経済活動が地域社会に及ぼす影響について理解する。	
		地域調査論	○	（概要） 地域動向や地域事象を的確に捉えるとともに、地域実態への理解を深めるための地域調査に関する基礎的な知識の体系について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （９　山本　努、７　牧野厚史／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （９　山本　努／５回） 地域調査の定義や歴史と地域調査の意義や目的について概説した上で、地域調査の諸類型や方法と倫理について学ぶとともに、地域調査の種類と実例について学修する。 （７　牧野厚史／８回） 量的調査と質的調査、統計的調査、事例研究法、学術調査、世論調査及び調査票調査や現地調査など、資料やデータの収集から分析までの諸過程について学修する。 （９　山本　努、７　牧野厚史／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	地域問題論	○	（概要） 地域社会における問題の多様性や多面性の理解とともに、地域社会を取り巻く主な問題の本質や特徴の考察を通して、地域社会で生起している問題を捉える観点や理解する視点について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （９　山本　努、７　牧野厚史、３　板谷淳一／１回）（共同） 本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （９　山本　努／６回） 地域社会における問題の側面や概念と共通性について学ぶとともに、都市や農山村が抱える問題の考察を通して、地域問題を捉える観点や理解する視点について学修する。 （７　牧野厚史／３回） 地域環境の形成や地域環境の保全をはじめとする地域における環境問題の現状や特性と課題についての考察を通して、地域の環境問題を理解する視点について学修する。 （３　板谷淳一／４回） 人口減少が地域経済に及ぼす影響など、地域社会が抱える経済的な問題の現状や特性と課題についての考察を通して、地域の経済問題を理解する視点について学修する。 （９　山本　努、７　牧野厚史、３　板谷淳一／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		比較地域論	○	（概要） 地域の共通性と個別性や地域における変動の特徴について明らかにするとともに、比較分析の結果を通して、比較地域学的な見方や考え方と基礎的な比較分析の手法について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （９　山本　努、３　板谷淳一、46　保苅英希／１回）（共同） 本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （46　保苅英希／５回） 地域を相対比して理解するための比較分析の定義と意義や目的について概説した上で、比較分析の特徴と対象や方法について学ぶとともに、比較対象地域の選定方法について学修する。 （９　山本　努／４回） 地域の成り立ちと地域社会の基層構造や社会変容について、実際の地域における類似と差異の分析や検討を通じて、地域の共通性と個別性や地域における変動の特徴について学修する。 （３　板谷淳一／４回） 地域により異なる経済システムや制度を比較し、それぞれの特徴と長所や短所についての比較分析や検討を通じて、地域における経済活動を動かす仕組みや機能の特徴について学修する。 （９　山本　努、３　板谷淳一、46　保苅英希／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	地域変動論	○	（概要） 社会構造の枠組みや経済構造の仕組みについて学ぶとともに、地域を取り巻く社会や経済の構造的変化の要因と社会や経済の構造の変化が地域に及ぼす影響について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （９　山本　努、３　板谷淳一／１回）（共同） 本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （９　山本　努／６回） 社会構造の要素や機能と社会構造の変化の背景について概説した上で、地方における社会変動の概況について解説するとともに、農山村や都市と地域生活の構造の変化について考察する。 （３　板谷淳一／７回） 経済構造及び景気循環や経済成長と経済政策を含む経済変動について解説した上で、地域経済の変動に影響を及ぼす主な要因とその影響や地域経済循環の要素と仕組みについて学修する。 （９　山本　努、３　板谷淳一／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域コミュニティ論	○	コミュニティを理解するための概念や特徴と近代の一歩手前のコミュニティについて概説した上で、コミュニティの再発見という現象について解説する。さらに、地域のコミュニティについて、組織とその存在理由及び代表的な組織と課題、まちづくりやむらづくり等の活動組織について解説するとともに、農村と都市のコミュニティ及び現代コミュニティの理論について学修する。	
		地域活性論	○	地域活性化の概念と現状や課題について概説した上で、地域活性化のメリットやポイントについて学ぶとともに、活性化地域の事例を取り上げながら、地域活性化の本質について考える。また、地域活性化に関わる国の施策の推移と制度や仕組みについて概観し、地域活性化制度の立案と評価や課題の考察を通して、地域活性化を考える視点や地域活性化の新展開の可能性について学修する。	
		地域調査法	○	（概要） 地域における様々な現象や問題について、地域調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な知識と方法について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （９　山本　努、７　牧野厚史／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （９　山本　努／２回） 客観的なデータを収集・分析することで地域の実態を明らかにするための具体的な方法について概説した上で、調査目的と調査方法、調査方法の決め方について学修する。 （７　牧野厚史／１１回） 調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定、サンプリング法、質問文・調査票の作成、調査の実施方法、調査データの整理など、調査の設計と実施方法について学修する。 （９　山本　努、７　牧野厚史／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	地域分析法	○	（概要） 地域の現状や課題の把握など地域分析の諸活動を円滑に行うための各種資料やデータの集計や分析に関する基本的な知識と方法について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （７　牧野厚史、46　保苅英希／１回）（共同） 地域分析法を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （７　牧野厚史／３回） 地域調査データの集計と分析方法、統計資料の整理と既存統計資料の収集や読み方について学ぶとともに、記述統計データの読み方（単純集計）について学修する。 （46　保苅英希／１０回） 記述統計データの読み方と質的データの読み方について学ぶとともに、アプリケーションソフトを活用したデータ分析及び調査データの操作と加工について学修する。 （７　牧野厚史、46　保苅英希／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地方自治論	○	地方自治論を学ぶ意義や目的について概説した上で、地方自治の理念や仕組みと役割について解説するとともに、これまでの地方自治の歴史や経緯について解説する。その上で、地方自治体の政策や財政と意思決定及び地方自治体の機構について学ぶとともに、地方自治体の区分けとそれをめぐる市町村合併や道州制度などの地方自治を取り巻く問題や課題について学修する。	
		地方財政論	○	国や地方公共団体の経済活動である財政の役割や機能について解説する。その上で、地域経済を取り巻く環境と経済社会の中で地方財政が果たす役割について概説し、地方財政の機能と仕組みや地方財政活動の現状と動向及び国と地方の財政関係や地方財政に関する制度、地方財政における負担構造の変化など地方財政をめぐる今日的な諸課題について考察する。	
		地域産業論	○	（概要） 特定の地域において発展し、地域経済を支える地域産業や地場産業の役割と存在意義や課題などについて、地域産業や地場産業における取組事例と関連付けながら学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （11　坂井俊文、46　保苅英希／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （11　坂井俊文／６回） 地域社会における地域産業が果たす役割や機能及び地域の産業的な特質や構造について概説した上で、地域と産業との関わりや地域産業が抱える課題について学修する。 （46　保苅英希／７回） 地場産業の概念と特性や地場産業の推移と特徴について概説した上で、産地型の産業集積や地場産業の諸相と方向性及び地場産業の現状と課題について学修する。 （11　坂井俊文、46　保苅英希／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	地域企業論	○	（概要） 地域社会と地域企業との関わりや地域企業が地域社会において経済的・社会的に果たしている役割や機能について、地域企業の動向や発展過程の考察を通して学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （11　坂井俊文、13　石山玄幸／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （11　坂井俊文／７回） 地域企業の概念と特性や機能と役割について概説した上で、環境変化に対する地域企業の動向と特徴から、地域企業の多様化と活発化や持続可能な成長について考える。 （13　石山玄幸／６回） 中小企業の概念と中小企業が果たす役割や存立意義について学ぶとともに、地域における小規模事業者の存立の現状について、具体的な事例を取り上げながら考察する。 （11　坂井俊文、13　石山玄幸／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域資源論	○	（概要） 地域に存在する多様な資源の意味や内容と特徴について理解するとともに、地域の魅力を高めるための資源の見方や捉え方について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （５　橋本行史、１　梶谷　崇、８　道尾淳子、24　飯嶋瑶子／１回）（共同） 本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （24　飯嶋瑶子／３回） 地域資源の概念や定義と分類について概説した上で、地域の魅力を高める視点に立った地域資源の多様性や有用性及び資源の見方や考え方について学修する。 （５　橋本行史／４回） 地域の魅力を高める視点から地域資源が注目される背景について概説した上で、地域資源の価値と効用や地域資源が果たす役割と機能について学修する。 （１　梶谷　崇／２回） 地域における民藝（民衆的工芸）や民藝館の概要と機能や特性についての考察を通して、地域の魅力を高めるための資源としての見方や捉え方について学修する。 （５　橋本行史／２回） 地域における特産品や名産品などの概要と意義や特性についての考察を通して、地域の魅力を高めるための資源としての見方や捉え方について学修する。 地域における古民家や町屋などの概要と意義や特性についての考察を通して、地域の魅力を高めるための資源としての見方や捉え方について学修する。 （８　道尾淳子／２回） 地域における景観や街路、歩行者空間などの概要と機能や特性についての考察を通して、地域の魅力を高めるための資源としての見方や捉え方について学修する。 （５　橋本行史、１　梶谷　崇、８　道尾淳子、24　飯嶋瑶子／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	資源活用論	○	（概要） 地域の魅力を高めるための資源の効果的な利用や活用について、具体的な取組事例と関連付けて理解するとともに、地域の資源を活用する視点や考え方について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （５　橋本行史、１　梶谷　崇、11　坂井俊文、８　道尾淳子、12　横山貴志／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （５　橋本行史／１回） 地域ならではの資源を活用する意義と重要性やメリットについて概説した上で、地域の価値を高めるための資源の効果的な利用や活用のあり方について解説する。 （１　梶谷　崇／２回） 民藝や民藝館の活用による地域の文化活動を促進するための具体的な取組事例の考察を通して、郷土文化や生活文化の特徴や機能を活用する視点や考え方について学修する。 （５　橋本行史／４回） 地域活性化に向けた農業特産品の開発における具体的な取組事例の考察を通して、地域の特産物の特徴を活かした特産品の開発における視点や考え方について学修する。 古民家や町家の再生による地域の魅力を高めるための具体的な事例の考察を通して、歴史的・伝統的な建築物や建造物などの特徴や機能を活かした再生の視点やあり方について学修する。 （11　坂井俊文／２回） 地域産木材の高付加価値化による新たな価値づくりやアルコールの高付加価値化を戦略的に展開している地域産業の事例の考察を通して、資源を活用する視点や考え方について学修する。 （８　道尾淳子／２回） 地域における景観や街路、歩行者空間の機能や特性を活用した地域の魅力を高めるための具体的な事例の考察を通して、地域の特性を資源として活用する視点や考え方について学修する。 （12　横山貴志／２回） 過疎地における歴史的価値を持つ地域資源の保存や資源を活用するための取り組みに関する具体的な事例の考察を通して、地域資源の再発見と再評価や利活用のあり方について学修する。 （５　橋本行史、１　梶谷　崇、11　坂井俊文、８　道尾淳子、12　横山貴志／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
	専門展開科目	マーケティング論	○	マーケティングを取り巻く市場環境の変化や特徴について概説した上で、マーケティングの概念や歴史と発展の過程及び意義や役割について解説する。さらに、マーケティングの流れと管理の重要性及び消費者の購買行動の特徴について学び、市場調査、製品政策、価格政策、チャネル政策及びプロモーション政策の目的や動向などの考察を通して、マーケティングの効果的な展開について学修する。	
		マーケティング調査	○	顧客のニーズや市場の動向を正確に把握するためのマーケティング調査の意義と目的について概説した上で、マーケティング調査の手法や手順と種類について解説するとともに、情報の収集と分析の方法について学ぶ。さらに、実際にマーケティング調査を行う課題を設定し、調査計画の立案から調査の実施、情報の収集や分析、報告書の作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験的に学修する。	
		マーケティング戦略	○	マーケティング戦略の定義や役割について概説するとともに、マーケティング戦略を策定する流れと枠組みやマーケティング戦略を成功させるポイントについて解説する。その上で、地方創生とマーケティングの関係性や役割と地域のブランド価値を高めるためのマーケティング戦略について学ぶとともに、地方創生におけるマーケティング戦略の成功事例の考察及びその活用法について学修する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門展開科目	ことづくり論		（概要） 地域社会に存在している商品やサービスなどを活用した付加価値づくりや顧客志向による新たな価値を提供するためのことづくりの考え方や重要性について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （10　若林靖永、11　坂井俊文、44　長谷川英幸／１回）（共同） ことづくり論を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （44　長谷川英幸／５回） ことづくりの概念や定義と意義と役割について概説した上で、ことづくりの背景と特徴やモノを使った付加価値づくりとことづくりのプロセスや成功要件について解説する。 （10　若林靖永／４回） 顧客との価値の創造や共創について概説した上で、顧客志向の本質と類型について学ぶとともに、顧客志向の現代的諸類型について、具体的な事例の分析を通して学修する。 （11　坂井俊文／４回） ビジネスモデルの考え方と構成要素について概説した上で、顧客志向による事業を展開する仕組みづくりについて、ものづくり企業における事例と関連付けながら学修する。 （10　若林靖永、11　坂井俊文、44　長谷川英幸／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域ブランド論		（概要） 特定の地域が持つ独自の魅力や特徴を活かして、地域の知名度やイメージを高めるための戦略的な活動としてのブランドの確立や構築について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （10　若林靖永、39　中川裕之／１回）（共同） 本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （10　若林靖永／４回） ブランドの定義や概念と特徴について概説した上で、ブランド成立の条件とブランド構築の要素について学ぶとともに、ブランド戦略の類型について学修する。 （39　中川裕之／９回） 地域ブランド戦略の意義と重要性について概説した上で、地域ブランドを構築するためのステップと地域ブランド構築を進めるポイントについて学修する。 （10　若林靖永、39　中川裕之／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域ビジネス論		地域ビジネスの概念や意義と種類や魅力及び役割と機能について解説するとともに、地域ならではの特色や魅力を活かしたビジネスの動向や展開の現状と地域のビジネスを取り巻く環境について学修する。その上で、身近な地域のビジネスの特徴や成功事例の考察を通して、地域づくりの視点を取り入れた地域に根差すビジネスの在り方について考える。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門展開科目	６次産業化論		（概要） ６次産業化の基本的な概念や枠組みについて学ぶとともに、地域で生産される資源の価値を高め、地域全体の経済を活性化させる６次産業について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （41　拔山嘉友、25　池端宏介、26　石川朋佳／１回）（共同） ６次産業化論を学ぶ目的について概説したうえで、学習目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （41　拔山嘉友／６回） ６次産業化の定義や種類について概説したうえで、６次産業化が注目される背景やメリットとデメリット、６次産業化に向けた法的支援や制度について学修する。 （25　池端宏介／３回） 北海道における６次産業化への取組と特徴について紹介したうえで、６次産業化への取組の視点や６次産業化を成功させるポイントについて学修する。 （26　石川朋佳／４回） 農水産物の６次産業化の実態と課題について概説したうえで、地域内で生産された農産物を用いた６次産業化における具体的な取組事例について考察する。 （41　拔山嘉友、25　池端宏介、26　石川朋佳／１回）（共同） 本科目で学習した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学習目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		商品開発論		商品の多様化の現状及び商品開発の意義と手順について概説した上で、商品を取り巻く環境の分析や商品開発の方針と商品開発のための市場調査及び商品コンセプトの考案について解説する。さらに、商品仕様の設計、試作品の作成と評価、消費者テストなどの商品開発の一連の流れについて学ぶとともに、商品開発に関する事業計画策定のポイントや事業計画書の作成方法について学修する。	
		流通販売論		商品やサービスが生産者から消費者にわたる仕組みについて概説した上で、流通における市場の役割と課題及び業態ごとの流通戦略について学ぶとともに、小売業と卸売業の主要な形態や特性及びＰＢ商品の開発の意義や商品計画の重要性について学修する。また、情報技術の進歩などの環境変化が流通に及ぼす影響や地域活性化と流通の関わりについて、具体的な事例と関連付けて学修する。	
		広報広告論		組織と社会の良好な関係を築くための広報活動の意義や役割と形態及び効果的な広報について解説するとともに、行政広報の具体的な事例の考察を通して、メディアの種類と特性及びソーシャルメディアの形態と特性や広報活動への活用について学ぶ。また、媒体を使用して広く情報を発信し、商品やサービスの販売促進やブランドの認知度を高める広告活動の意義や手法について学修する。	
		知的財産権		人間の知的活動によって生み出されたアイデアや創作物などの財産的な価値を持つ知的財産の概要について概説した上で、特許権や実用新案権などの法律で規定された権利や法律上保護される利益に係る権利として保護される知的財産権の定義や歴史と類型や制度及び知的財産の活用の重要性について解説するとともに、商標や意匠などの登録の意義と出願手続きの概要について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門展開科目	イノベーション論		（概要） 新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらすことについて、地域社会や地域企業における具体的な事例を取り上げながら考察する。 （オムニバス方式／全１５回） （７　牧野厚史、11　坂井俊文、50　矢野　奨／１回）（共同） 本科目を学ぶ意義と目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （50　矢野　奨／７回） イノベーションの定義や役割と分類について概説した上で、イノベーションが注目される背景とイノベーションを起こすポイントやプロセスについて学修する。 （７　牧野厚史／２回） ポスト農業時代の農の活かし方について概説した上で、農山村のイノベーションについて、移住者を組み込んだ農地継承の仕組みに関する事例を取り上げながら考察する。 （11　坂井俊文／４回） 地域企業のイノベーションの多様化と活発化の現状について概説した上で、地域企業における戦略的イノベーションについて、具体的な事例を取り上げながら考察する。 （７　牧野厚史、11　坂井俊文、50　矢野　奨／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		デザインシンキング		問題解決プロセスとしてのデザイン思考の意味や内容と価値や重要性について概説した上で、デザイン思考がビジネスで注目される理由やビジネスにおけるデザイン思考の役割について解説する。その上で、デザイン思考のプロセスにつて学ぶとともに、デザイン思考のメリットとデメリットやポイントと注意点について学修する。	
		まちづくり論		（概要） 地域社会にすでに存在している施設や建物、景観などの資源を活用した地域の魅力や活力を高めるためのまちづくりの本質的な価値や在り方について学ぶ。 （オムニバス方式／全１５回） （２　石田眞二、８　道尾淳子、49　安富　啓／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （49　安富　啓／９回） まちづくりの概念や定義と視点について概説した上で、地域の魅力や活力を高めるための活動の考察を通して、まちづくりの基本的な仕組みや考え方について学修する。 （２　石田眞二／２回） 地域に存在している施設や景観などの資源とその価値について概説した上で、既存の資源の活用による地域の魅力や価値を高める活動の意義と重要性について学修する。 （８　道尾淳子／２回） 地域独自の歴史的な景観を有効的に活用したまちづくりの具体的な取り組みの考察を通して、地域に既に存在している資源を活かしたまちづくりの在り方について考察する。 （２　石田眞二、８　道尾淳子、49　安富　啓／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門展開科目	合意形成論		議論などを通じて関係者の根底にある多様な価値を顕在化させ、意思決定において相互の意見の一致を図る過程としての合意形成の目的や意義と重要性について概説する。その上で、まちづくりにおいて市民の意見を反映させる行政参加（市民参加）の取り組みとして行われる合意形成手法について学ぶとともに、行政と市民のパートナーシップを前進させる合意形成システムについて学修する。	
		都市計画論		（概要） 都市の将来あるべき姿を想定し、その実現を図るための都市計画について学ぶとともに、都市を適正に発展させるための考え方と方法や手段について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （２　石田眞二、32　窪田映子／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （32　窪田映子／９回） 都市計画の概要と意義や仕組みについて概説した上で、都市計画の現状と都市環境をはじめとする都市を取り巻く課題の考察を通して、都市の健全な発展と秩序ある整備の在り方について学修する。 （２　石田眞二／４回） 都市計画に関する事項を定めた都市計画法について解説した上で、都市計画法に基づき都道府県が策定している都市計画区域マスタープランの考察を通して、都市づくりの在り方について学修する。 （２　石田眞二、32　窪田映子／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		都市環境論		（概要） 都市部における快適なまちづくりを考える上での基本的な条件となる都市環境について学ぶとともに、都市環境を悪化させないための仕組みや仕掛けについて学ぶ。 （オムニバス方式／全１５回） （８　道尾淳子、７　牧野厚史、30　片山めぐみ／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （30　片山めぐみ／７回） 都市環境の概念や特徴と問題及び都市環境の構成要素について概説した上で、環境のまちづくりの事例の考察を通して、都市環境整備の推進や管理と評価について学修する。 （７　牧野厚史／３回） 歴史的環境の概念について概説した上で、地域の歴史の中で形成された町並みや景観の保存や保全に関する考察を通して、歴史的環境と都市の持続可能性について考究する。 （８　道尾淳子／３回） 生活の基本的な施設としての街路の役割と機能について概説した上で、街路整備と効果の考察を通じて、豊かな公共空間を備えた良好な市街地環境の在り方について考える。 （８　道尾淳子、７　牧野厚史、30　片山めぐみ／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門展開科目	地域景観論		（概要） 自然の風景や建築物等のあらゆる要素が組み合って構成される景観について学ぶとともに、地域ごとの役割や特性に配慮した良好な景観の形成と維持について学修する。 （オムニバス方式／全１５回） （２　石田眞二、８　道尾淳子、21　安達重好／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （21　安達重好／６回） 地域における景観の概念や意義と領域や構成要素について概説した上で、景観の多様性や普遍性と特性や課題について学ぶとともに、景観の形成と保全や景観と都市計画との関係について学修する。 （２　石田眞二／３回） 道路景観の特質と機能や重要性について概説した上で、道路景観の整備に関する具体的な事例を取り上げながら、道路景観の整備の視点や考え方と効果及び道路景観の評価の手法について学修する。 （８　道尾淳子／４回） 地域における歴史的景観の現状と特質について概説した上で、歴史的街路の歩行者空間化や歴史保全を目指す道路や屋外空間利用などの考察を通して、歴史的景観の魅力や重要性について学修する。 （２　石田眞二、８　道尾淳子、21　安達重好／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域交通論		（概要） 交通を取り巻く社会や経済の情勢と交通に係る計画の概要について学ぶとともに、地域における移動手段をめぐる現状や課題と移動の特性やニーズを把握する手法について学ぶ。 （オムニバス方式／全１５回） （２　石田眞二、31　河合宏之／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （31　河合宏之／８回） 交通の意義や性質と発展の歴史及び交通政策の変遷や都市計画と交通計画の関係について概説した上で、交通計画の概要や目標と施策及び交通計画の課題について学修する。 （２　石田眞二／５回） 地域における交通計画の標準的な調査・予測・計画・設計の方法について解説するとともに、交通計画における高齢化社会への対応や環境負荷の軽減などの課題について考察する。 （２　石田眞二、31　河合宏之／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		住宅計画論		住環境の定義と意義や住環境の要素と評価基準について概説した上で、住環境が生活や健康に与える影響についての考察を通して、住居周辺の社会的、自然的な環境のあり方について学修する。また、住生活の安定と向上のための目標や施策及び地域の実情に合わせた良好な住宅市街地の形成に向けた国や地方自治体による取り組みについて学修する。	
		公園緑地計画論		公園緑地の定義と役割や機能と分類について概説した上で、公園緑地に関する歴史や制度と動向について解説するとともに、都市施設としての公園緑地や緑地資源としての公園緑地について解説する。さらに、公園緑地の計画と設計や公園緑地の緑化及び歴史的空間や文化的景観の保全と制度、災害時における公園緑地の役割など、公園緑地の活用と管理運営について学修する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門展開科目	地域災害論		（概要） 人の命や人間の社会的活動に被害が生じる現象について学ぶとともに、過去に発生した自然災害の考察を通して、頻発する自然災害にどのように向き合うべきかについて考える。 （オムニバス方式／全１５回） （６　細川和彦、７　牧野厚史、47　村澤直樹／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （47　村澤直樹／７回） 災害の定義と分類について概説した上で、異常な自然現象に起因する自然災害の種類や特徴と自然災害の種類ごとの危険性について、具体的な事例を取り上げながら考察する。 （７　牧野厚史／２回） 気候を変化させる要因について概説した上で、気候変動の問題と気候変動による問題が生じる仕組みについて解説するとともに、気候変動により生じる災害について考察する。 （６　細川和彦／４回） 積雪地域における雪氷災害の種類と特徴について概説した上で、都市機能への深刻な影響をもたらす市街地での雪害の実態について、具体的な事例を取り上げながら考察する。 （６　細川和彦、７　牧野厚史、47　村澤直樹／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		地域防災論		（概要） 自然現象を誘因として発生する被害を最小限に抑えるための計画や対策について学ぶとともに、災害が起きにくい安全で安心して暮らせる地域づくりの在り方について学ぶ。 （オムニバス方式／全１５回） （６　細川和彦、22　安達幸弥、38　飛岡啓之／１回）（共同） 本科目を学ぶ目的について概説した上で、学修目標や目標達成のための授業の方法と計画及び成績評価の基準と方法について解説する。 （38　飛岡啓之／４回） 地域防災の目標や特性と地域防災の基本的な方向について概説した上で、地方自治体による被害を最小限に抑えるための防災計画や防災対策と防災行動について学修する。 （22　安達幸弥／４回） 地方自治体による防災計画や防災対策の具体的な事例を取り上げながら、地域特性を踏まえた災害に強い地域社会の形成に向けた取り組みの推進について考察する。 （６　細川和彦／５回） 積雪寒冷地における避難所の運営や避難路の確保と防災情報システムの整備について概説した上で、積雪地域特有の災害リスクに即した防災施策の在り方について考察する。 （６　細川和彦、22　安達幸弥、38　飛岡啓之／１回）（共同） 本科目で学修した内容についての整理と総括を行うとともに、本科目の学修目標に照らした理解度についての確認を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
	専門実践科目	現地調査（地域理解）	○	専門教育における学修成果を高めるための導入教育として、地域の多様な姿を直接的に見て回る現地調査学習を行う。具体的には、現地を訪れ、テーマに応じて、実際の地域の様子を見て回ることで、地域の現状や特性の理解など、地域の実態を正しく認識する。また、現地における聴き取りによる情報の収集などを通して、基礎的なコミュニケーション能力を身に付ける。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門実践科目	現地調査（地域問題）	○	専門教育における学修成果を高めるための導入教育として、地域が抱える多様な問題を直接的に見て回る現地調査学習を行う。具体的には、現地を訪れ、テーマに応じて、実際の地域の現状を見て回ることで、地域が抱える多様な問題について正しく認識する。また、現地における聴き取りによる情報の収集などを通して、基礎的なコミュニケーション能力を身に付ける。	共同
		現地調査（地域資源）	○	「地域資源論」において学修した地域の魅力を高めるための、地域に存在する資源の意味や内容と特徴についての理解を深めるとともに、地域の資源の見方や捉え方の定着を図るため、地域の資源を直接的に見て回る現地調査学習を行う。具体的には、現地を訪れ、テーマに応じて、実際に地域に存在する資源についての観察や調査を通して、地域の多様な資源についての理解を深める。	共同
		現地調査（資源活用）	○	「資源活用論」において学修した地域の魅力を高めるための資源の効果的な利用や活用についての理解を深めるとともに、地域の資源を活用する視点や考え方の定着を図るため、地域の資源を活用した取組みを直接的に見て回る現地調査学習を行う。具体的には、現地を訪れ、テーマに応じて、資源の活用の実態についての観察や調査を通して、多様な資源の活用についての理解を深める。	共同
		地域調査実習	○	地域の現状や課題を的確に把握するための調査の企画から実査、データ分析、報告書の作成までの全過程についての体験的な学修を通して、地域調査の知識と技能の深化と総合化を図る。具体的には、調査の企画、対象者・地域の設定、調査項目の設定、仮設の構成、質問文・調査票の作成、サンプリング、調査票の配付・回収、データ収集、調査データの整理、調査データの分析、仮説の検証、フィールドワーク、調査報告書の作成など、地域調査に関する諸過程について実際に経験し、学修する。	
		地域創造演習	○	地域が保有する資源の活用による新たな商品やサービスを企画・開発し、事業化へと結び付けていく取組みや地域に存在する資源を活用した良好な都市環境や都市空間を形成し、美しいまちづくりへと結び付けていく取組みなど、地域の魅力を高めるための資源の掘り起こしや洗い出しから、地域の資源の活用により地域振興や地域活性化を遂げた事例を取り上げ、文献検索、資料収集、資料分析、意見交換、分析結果の発表等を通じて、地域の資源と活用の在り方について考察する。	共同
		地域創造実習	○	地域の資源を活用した地域の魅力を高めるための業務や諸活動に対する適切な観察を行い、実務に関わる補助的な役割を担うことを通して、地域の資源を活用することへの理解を深めるとともに、既修の専門的な知識や理論と技能等を、地域資源の活用による地域の魅力を高めるための職業や諸活動の現場で実践できる応用力を身に付ける。また、地域資源の活用に関わる様々な職種の人々との連携や協働を通して、各々の果たす役割や責任について体験的に学修する。	共同
	専門研究科目	地域研究法	○	地域の魅力を高めるための諸活動に関する問題や課題を追求し、発展させていくための研究の原理と基礎的な知識や方法について学修する。具体的には、研究の位置付けと意義や研究の種類について概説した上で、研究のプロセス、研究の方法、研究の倫理などについて理解するとともに、情報収集や分析方法、文献検索や文献購読の方法、最適な研究方法を選択するための考え方、研究計画の立案と研究計画書の作成、研究論文の書き方や研究発表の仕方について学修する。	
		地域創造研究	○	学部教育において修得した地域創造に関する知識、技能、態度などを総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる総合的な能力を養成する。具体的には、地域の資源の活用や地域の魅力を高めるための研究課題を設定し、研究課題に則した研究計画の策定から、各自の研究計画に基づく資料収集、分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、自己の考えを展開する能力を高めるとともに、研究成果に関する成果発表に向けた指導を行う。	

学校法人北海道科学大学　設置認可等に関わる組織の移行表

【令和8年度】 大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	【令和9年度】 大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
北海道科学大学				北海道科学大学				
工学部				工学部				
機械工学科	92	—	368	機械工学科	92	—	368	
電気電子工学科	80	—	320	電気電子工学科	80	—	320	
建築学科	90	—	360	建築学科	90	—	360	
都市環境学科	50	—	200	都市環境学科	50	—	200	
情報科学部				情報科学部				
情報科学科	100	—	400	情報科学科	100	—	400	
				経営情報学科	50	—	200	学科の設置(届出)
薬学部				薬学部				
薬学科（６年制）	180	—	1,080	薬学科（６年制）	180	—	1,080	
保健医療学部				保健医療学部				
看護学科	90	—	360	看護学科	90	—	360	
理学療法学科	50	—	200	理学療法学科	50	—	200	
臨床工学科	70	—	280	臨床工学科	70	—	280	
診療放射線学科	50	—	200	診療放射線学科	50	—	200	
未来デザイン学部				未来デザイン学部				
メディアデザイン学科	90	—	360	メディアデザイン学科	90	—	360	
人間社会学科	50	—	200		0	—	0	令和9年4月学生募集停止
				地域創造学部				
				地域創造学科	75	—	300	学部の設置(認可申請)
計	992	—	4,328	計	1,067	—	4,628	
北海道科学大学大学院				北海道科学大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	5	—	10	機械工学専攻(M)	5	—	10	
電気電子工学専攻(M)	4	—	8	電気電子工学専攻(M)	4	—	8	
情報工学専攻(M)	4	—	8	情報工学専攻(M)	4	—	8	
建築学専攻(M)	4	—	8	建築学専攻(M)	4	—	8	
都市環境学専攻(M)	4	—	8	都市環境学専攻(M)	4	—	8	
工学専攻(D)	6	—	18	工学専攻(D)	6	—	18	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(４年制D)	3	—	12	薬学専攻(４年制D)	3	—	12	
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
看護学専攻(M)	5	—	10	看護学専攻(M)	5	—	10	
リハビリテーション科学専攻(M)	4	—	8	リハビリテーション科学専攻(M)	4	—	8	
医療技術学専攻(M)	4	—	8	医療技術学専攻(M)	4	—	8	
保健医療学専攻(D)	3	—	9	保健医療学専攻(D)	3	—	9	
計	46	—	107	計	46	—	107	